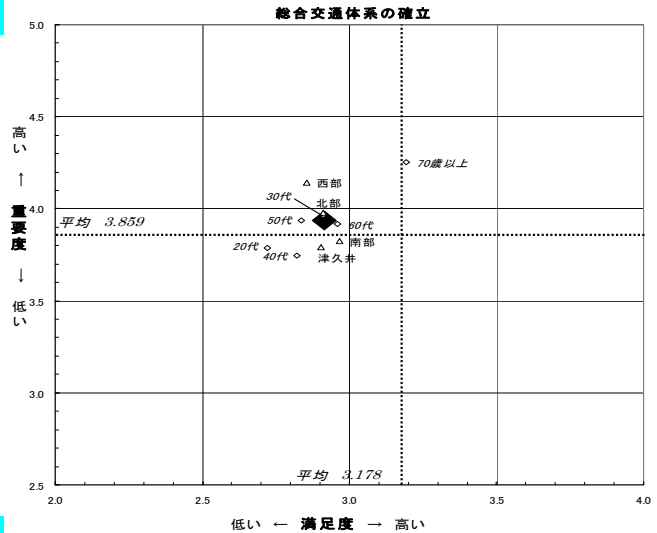




#### 4 市民満足度調査結果(平成20年度実施分)

○この施策の満足度は2.916で121施策の中で118番目。  
 ○重要度は3.939で51番目である。  
 ○改善要望度は0.2417で20番目である。  
 ○年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、20代で最も低くなっている。重要度は70歳以上で最も高く、40代で最も低くなっている。  
 ○地区別にみると、満足度は南部で最も高く、西部で最も低くなっている。重要度は西部で最も高く、津久井で最も低くなっている。



#### 5 1次評価(2つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	H18評価点	前回(H18)評価結果との比較分析
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4(2)1	4(2)1	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4(2)1	4(2)1	
合計		4		評価結果に基づく区分(2項目の合計点数による) A(6点以上) B(5点・4点) C(3点以下)
				1次評価 B

\*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

#### 6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	過度な自家用車の利用による交通渋滞、環境負荷、及び通勤時間帯の駅周辺への交通集中
解決策	総合都市交通計画策定によるTDM施策の推進、およびバス交通基本計画による公共交通への利用転換

#### 7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

客観的に成果を測定できる指標設定を行う必要がある 【修正を行わない理由】 公共交通計画関連事業、及びバス交通対策推進事業は計画策定の段階であるが、平成20年度に実施される東京都市圏パーソンとリップ調査の解析が平成22年度となり、その結果を反映させる必要があるため、計画策定が平成23年度になる見込みであり、現状としては具体的な指標の設定が難しい状況である。策定後は、計画目標等を反映した具体的な指標の設定を行っていく。 また、交通需要マネジメント推進事業については、当初案のとおり、平成15、16年度に実施した県道54号相模原愛川での社会実験に基づく21施策の実施を指標としたが、今後、事業実施の効果を検証する仕組みの検討を行っていく。	2次評価 B
---	-----------

\*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

#### 8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

評価実施の是非を検討する必要がある。	3次評価 B
--------------------	-----------

\*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

構成事務事業一覧

単位:千円

事務事業 担当課	構成事務事業	H19決算見込 (事業費)	H20予算 (事業費)	H21見込額 (事業費)	事業効果 の高い 指標番号	前回の 優先順位	H17人員 (人)	H17決算額 (事業費)	H17合計 (人件費含む)
都市交通計画課	交通需要マネジメント推進事業	432	360	360	1	1	1.00	10,858	18,908
都市交通計画課	公共交通計画関連事業	100	32,600	32,600					0
都市交通計画課	バス交通対策推進事業	83,010	4,000	4,000					0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
		83,542	36,960	36,960			1.00	10,858	18,908